

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ムロアジ類

学名 *Decapterus spp.*

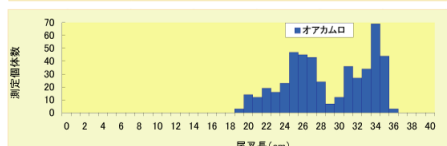
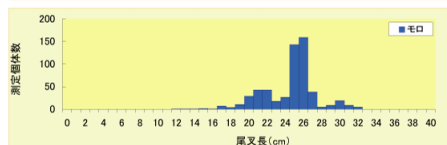
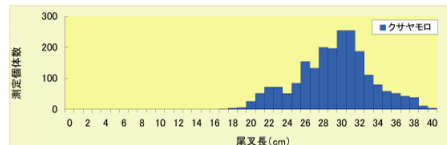
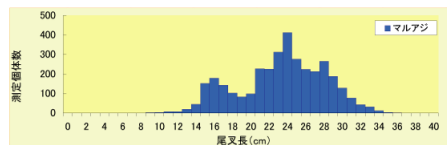
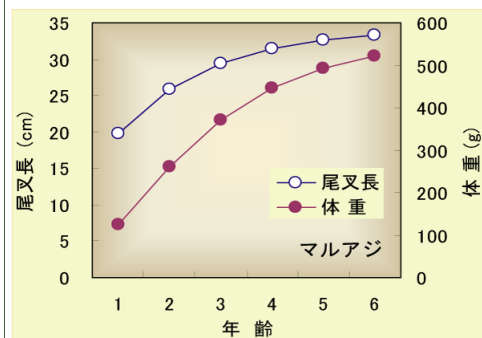
系群名 東シナ海

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5～6歳程度
成熟開始年齢: 不明
産卵期・産卵場: 春～夏季に産卵する魚種が多い、東シナ海の広い範囲で産卵するが魚種により異なる
索餌期・索餌場: 不明
食性: 動物プランクトンを主体に捕食
捕食者: 大型魚類や哺乳類

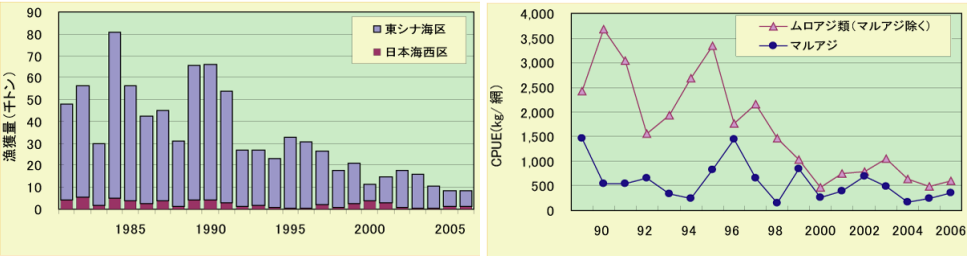


漁業の特徴

大中小型まき網および中小型まき網により漁獲され、大中小型まき網が漁獲量の約5割、残りの多くを中小型まき網が占める。東シナ海区で多く漁獲されるムロアジ類は、マルアジ、ムロアジ、モロ、クサヤモロ、オアカムロ、アカアジである。中国もムロアジ類を多く漁獲している。この海域におけるムロアジ類の漁獲量を県別でみると長崎県と鹿児島県の漁獲量が多い。

漁獲の動向

東シナ海区の漁獲量は1984年の76千トン进行ピークに一度減少したもの、1989年と1990年に60千トンを超えた。その後減少を続け、2000年には10千トンを下回った。日本海西区における漁獲量は、1982年に55百トンの漁獲があったが、1990年代半ばには1千トンを下回った。日本海北区は、200トン以下の漁獲量で、2006年は72トンであった。2006年の合計漁獲量は約8千トンであった。



資源評価法

ムロアジ類には複数の種が含まれており、それぞれの種について資源量推定を行うには十分なデータがない。ここでは単一の漁業種類としてはムロアジ類漁獲の大きな割合を占める大中型まき網のCPUEの動向から資源水準と動向を判断した。なお、大中型まき網ではムロアジ類はマルアジとその他のムロアジ類の2つに分けて漁獲情報の収集がされているため、ムロアジ類全体としてはムロアジ類およびマルアジのCPUEのそれぞれの値の相乗平均値を資源量の指標値とした。

資源状態

大中型まき網のムロアジ類(マルアジ除く)のCPUEは、1990年を境に増減を繰り返しながら減少傾向にあり、2000年以降でみると横ばい傾向にある。マルアジCPUEは増減を繰り返しながら推移し、近年では2002年に比較的高い値を示したものの、2003年以降減少し、2005年以降は増加した。2000年以降でみると横ばい傾向にある。ムロアジ類およびマルアジCPUEの相乗平均値は2000年以降おおむね一定の水準を保っている。最近20年間で見るといずれも低水準にある。

動向

水準

高**位**

中**位**

低**位**

横**ばい**

管理方策

資源量の指標値の動向から、現在の資源量は低水準にあるとみられる。しかし、ムロアジ類については複数魚種が含まれ、それぞれの資源動向を正確に判断することは困難であるので、現状では資源の指標値に合わせて漁獲することが現実的であろう。全体としてみると、資源水準は低位だが、動向は横ばいとみられるので、現在程度の漁獲量は妥当であると判断した。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	8,400トン	C2006	—	—
ABCTarget	6,700トン	0.8・C2006	—	—

- 資源評価のまとめ**
- ムロアジ類には複数種が含まれ、マルアジを除くその他の種の生物学的特性および資源指標は不明である
 - 資源水準は低位で、動向は横ばいである
- 管理方策のまとめ**
- 現状では種毎の漁獲量ですら把握できないので、資源の指標値にあわせて漁獲することが現実的である
 - 東シナ海全域での資源状態の正確な把握には、関係国間の協力が必要である

資源評価は毎年更新されます。